

田植え体験学習レポ

エコファーム 藤原 勲

梅雨の中休みか晴天の続く6月10日、恒例の佐保台小学校5年生による田植え体験学習が、ならやまの水田で行われました。

朝からの好天で気温も30度を超える夏日になることが予想され、生徒たちのコロナ感染対策と同時に熱中症対策のために、急遽水田東側の竹林の側に大型テントを張ることにしました。田植え作業の準備も整った頃報道の奈良テレビ、朝日新聞、毎日新聞のクルーも到着し生徒たちを待ち受けています。

予定の10時頃にならやま大通りを渡り展望台の横の階段から、青い帽子に真っ白いシャツ、青い短パンの元気の良い生徒たちの声が聞こえてきました。テントに荷物を置くと水田の南側の土手に集まり、待ち受けていた女性会員から赤い褌を着けてもらい、どこか面映ゆくもやる気になっているような表情も見られます。

千載会長の歓迎の挨拶でこの体験学習が今回で13回目であり、これまでに約250名の先輩たちが田植えをしている事、次に鈴木前会長の



の今から植える古代米の一種「さよむらさき」の話や田植えについての説明や注意事項などを生徒

たちは熱心に聞いていました。

女子生徒11名は北の水田(はぐくみ)、男子生徒12名は南の水田(未来っ子)の畦で東に向かって南北に一直列に並び、各自が持参した名札を自分が植える田の水際に立てました。

始まるの合図で水田の中へ恐る恐る足を入れると「冷たい!」「ぬるぬるして気持ち悪い!」「足が抜けないー!」とあちらこちらで声が上がリ、ふらふらして手をついたり、横や後ろを向いたりなかなか思い通りに動けません。



男性会員が畦の両側から、植える位置の目印を付けたロープを張り、いよいよ田植えの開始。

水田に浮かべられている早苗の束を手に取り、教えられたとおり1人90cm幅の間に3株ずつを3列植えていき、全員が植えると合図の笛で30cm後ろへ下がり、また同じように3列植えていきます。3回、4回と繰り返していくうちに慣れてきて歪まず等間隔に早く植えられるようになってきました。余裕が出てくると隣の子とふざけたり、よそ見をして思わず尻餅をついて泥だらけになっている子が見られ、その度にあちこちでどっと歓声や笑い声が上がっています。



やっと全員が植え終わり、洗い場へ行くと優しい女性会員のサポートで泥のついた短パンなども綺麗にしてもらいテントでホット一息。

報道記者から取材を受けて、カメラの前ではにかみながらも初めての体験を楽しそうに話していた女子生徒の笑顔が印象的でした。

最後にユーチューブから録音した懐かしい「♪田植え歌」をバックミュージックに、田の神様に作物への感謝の気持ちと、秋の豊作を願って全員が見守るなか、男女代表の2名がならやまで咲く花を水田にお供えしました。

予定より少し早い11時15分頃、爽やかな笑顔と声で帰路につく生徒たちを見送るように植えられたばかりの水田一面の早苗が青田風に揺らんでいます。

秋にはまた、みんなで元気で楽しく稲刈りや脱穀の収穫体験をしましょう。

できればマスクなしで!!!